

温室効果ガス排出量報告書

排出量計算書を利用し、作成してください。

1 排出量実績 (CO₂換算)

基準年度の排出量 ① (平成17年度以降の任意の年度)	排出量実績 ② (申請時は前年度実績(又は過去5か年度の平均)) (更新時は過去5か年度の平均)					
平成23年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	削減率 (②-①) / ① × 100
42.4	28.0	28.2	42.4	38.9	36.0	
t-CO ₂ /年	(平均)			38.9	t-CO ₂ /年	8.3 %

新規申請の際は基準年度と直近年度の単年度のみの比較でも結構です。

基準年度(平成17年度以降)を設定してください。更新申請の際は、前回の申請時と同じ基準年度で記入してください。

比較する場合も、上欄の排出量は必ず記入してください。

原単位については任意ですが、設定する場合は業態に応じて適切な原単位としてください。

※ 原単位あたりの排出量

原単位の指標

原単位あたり基準年度の排出量 ① (平成17年度以降の任意の年度)	原単位あたり排出量実績 ② (申請時は前年度実績(又は過去5か年度の平均)) (更新時は過去5か年度の平均)						削減率 (①-②) / ① × 100
平成23年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
0.18	0.16	0.16	0.17	0.16	0.15		
	(平均)			0.16		11.1 %	

2 排出抑制に係る主な取組内容 (量が多い場合は別添でも構いません)

<取組例>

- ・空調を高効率のものに更新
- ・空調時間の短縮 (8:00~19:00⇒9:00~18:00)
- ・照明の間引きの徹底
- ・ボイラーの高効率化

今回の削減実績内容を記載してください。

必要に応じて参考資料をつけてください。

<備考>

- 1 別紙(温室効果ガス排出量計算書)を使用して排出量を計算し、その数値を記入してください。(この様式に別紙を添付して提出してください。)
- 2 市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例に基づく「地球温暖化対策計画書」の届出事業者の方は、市へ実績として報告した排出量を「排出量実績②」へ記入しても構いません。その場合、「基準年度の排出量①」は、「排出量実績②」の計算で使用した排出係数(温室効果ガスの排出量をエネルギー使用量から換算する係数)で算出した数値を記入してください。
- 3 「排出量実績②」は、新規申請時には申請年度の前年度実績(又は前年度以前5か年度の実績及びその平均実績)を記入してください。更新時には更新する年度の前年度以前5か年度の実績及びその平均実績を記入してください。
- 4 基準年度は、新規申請時に設定した年度をその後も継続して基準年度とします。
- 5 この報告書で排出量の計算に使用する排出係数は、「地球温暖化対策計画書」の届出制度で使用している排出係数とします。また、「基準年度の排出量①」は、申請(更新)時に「排出量実績②」の計算に使用した排出係数で算出するものとします。